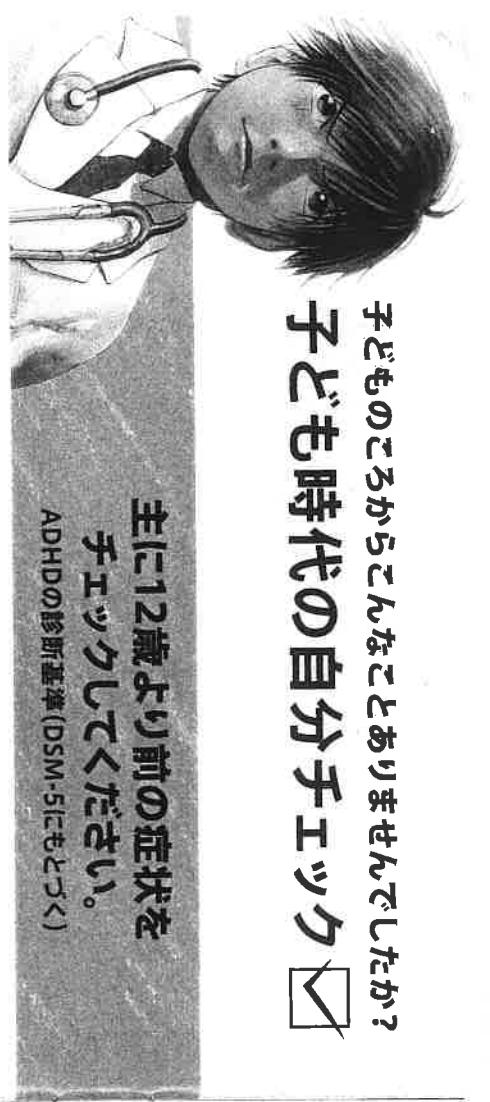


# 子どものころからこんなことありませんでしたか？

## 子ども時代の自分チェック



### 不注意



## ② 多動性 および 衝動性

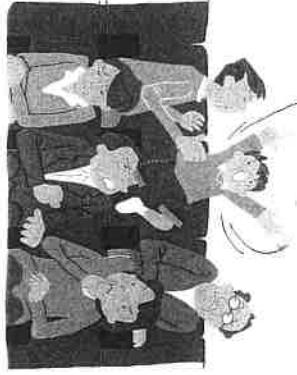
(a) 手足をそわそわと動かしたり、いきの上でもじもじしてしまう  チェック



(b) 授業中など、座っていないければいけないときに、立ちあがってしまって  チェック



(d) 遊びやクラブ活動中におとなしくしていることが苦手  チェック



(e) じっとしていることが苦手  チェック



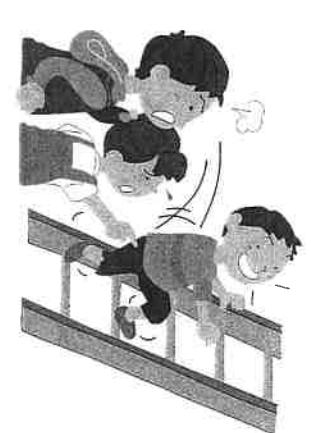
(c) 動きまわってはいけない状況で、落ち着かない  チェック



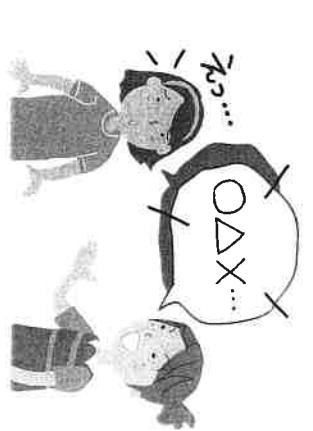
(f) おしゃべりしすぎることがある  チェック



(h) 順番を持つことが難しい  チェック



(g) 質問が終わる前に答える  チェック



(i) ほかの人があちこちに割り込んでしまう  チェック



**A** ①お遊び/または②によって特徴づけられる、不注意および/または多動性・衝動性の持続的な様式で、機能または窮屈の妨げとなっているもの:

**① 不注意 / ② 多動性および衝動性**

これらの症状のうち6つ(またはそれ以上)が少なくとも6ヶ月持続したことがあり、その程度は発達の水準に不相応で、社会的および学業的/職業的活動に直接、悪影響を及ぼすほどである:

注: それらの症状は、異なる角度、頻度、強度ではなく、理解や指示を理解できないことでもない。青年期後期および成人(17歳以上)では、少くとも5つ以上の症状が必要である。

- B** 不注意または多動性・衝動性の症状のうちいくつかが12歳になる前から存在していた。
- C** 不注意または多動性・衝動性の症状のうちいくつかが12歳になる前から存在する。
- D** これらの症状が社会的、学業的、または職業的機能を損なわせているまたはその質を低下させているという明確な証據がある。
- E** その症状は、統合失調症、または他の精神疾患の経過中にのみ起こるものではなく、他の精神疾患(例: 意識障害、不安症、抑鬱症、パーソナリティ障害、物質中毒等)ではうまく説明されない。